

# 仕事 図鑑

## CASE 03

有限会社スマッシュ (仙台市)  
営業企画/デザイナー  
**佐々木 綾音さん** (21歳)  
Sasaki Ayane



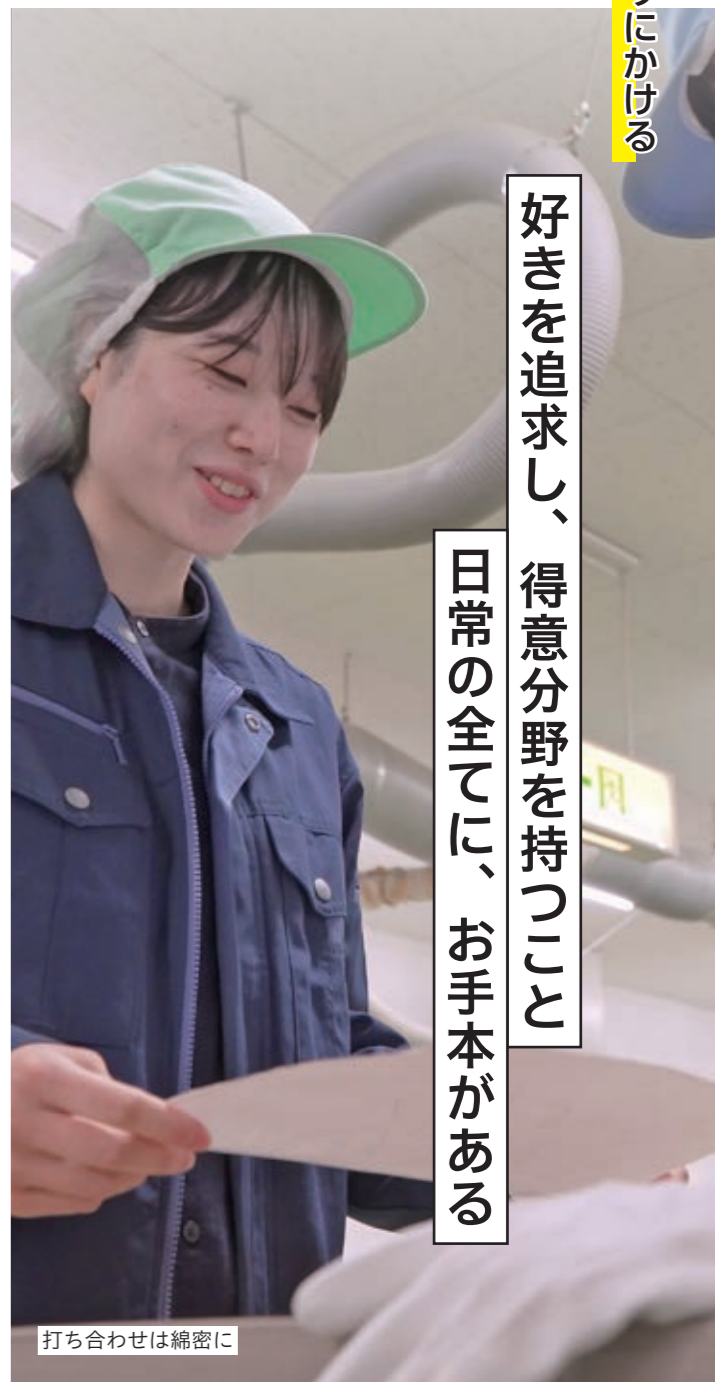
パッケージのサンプル製作も行います



現場でもこまめにチェック



グラフィックデザインはPC上で



好きを追求し、得意分野を持つこと  
日常の全てに、お手本がある

打ち合わせは綿密に

### パッケージを通して 東北の宝を発信したい

1991年、仙台市に設立し32年目を迎える有限会社スマッシュ。パッケージデザインの制作を手掛け、「グッドデザイン賞」や「おいしい東北パッケージデザイン賞」など、輝かしい受賞歴を重ね躍進する、宮城県のものづくり企業です。

初代社長であり現会長の荒木志朗さんと、2代目社長となる賢一朗さんは、「これからは包装業界もデザイン力が求められる時代」という方針を打ち出し、デザイン力強化のための優秀な人材確保に奔走。

「パッケージは、贈り手が受け手に気持ちを伝えるコミュニケーション手段として生まれ、時代の変化に合わせて役割を進化させてきました」と賢一朗さん。進むべき次の一手を構築する一方、「資源や文化の価値を重んじ、東北の明るい未来へ、パッケージを通して

て貢献していきたい」と話します。

社長のこの思いに共感し入社したのが入社2年目の佐々木綾音さん。デザイナーとして社内外から期待されています。「幼いころから絵を描くのが大好きでした。高校時代に参加したポスターコンペの経験から、自分の力を誰かのために使いたいと思うようになりました。自分が大好きな故郷『東北』の発展に、パッケージ制作を通して貢献したいという企業姿勢に、強く惹かれました」と話します。

### 仲間からの評価が モチベーションを上げる

社内での佐々木さんは、主にデザイン制作のオペレーターと設計を担当。グラフィックソフトを駆使し制作に携わっています。「パソコン操作のデスクワークが主な作業ですが、お客様のヒアリングでは営業の

先輩に同行したり、提案用パッケージサンプルを手掛けたり、印刷の現場に出向いたり、製造現場や社外で作業することも多いです」と話します。

同社は、取引先との打ち合わせに、営業担当と共に制作担当も同行。先方の意向を聞き取り、雰囲気や制作すべき商品のデザイン嗜好を五感で感じ、制作物に反映するものづくりの姿勢を大事にしてきました。佐々木さんも、入社1年目からヒアリングの実践を積み重ねています。仙台市内にある専門学校、日本デザイナー芸術学院でグラフィックを学んだ佐々木さん。

「これまで、上司や先輩の支えや声掛けのおかげで覚えたことも多いですが、まだ慣れないこともある」と苦笑い。お客様との会話の進め方、箱を設計する際の留意すべきことなど、先輩にアドバイスをもらい、製造担当への問い掛けを綿密にすることで、一歩ずつ経験を蓄積しています。

上司であり制作責任者の稲葉晴彦さんは、デザイナーという強みを持つ佐々木さんが、そこに甘んじることなく積み重ねてきた努力を評価。先輩の営業担当も、彼女の作る製品に期待を寄せています。佐々木さんの目標は「パッケージデザインをベースに、企画からグラフィックス、ディレクションができるまで経験を重ねたいです」とのこと。「誰かのために」と話す佐々木さんの、強い決意が言葉の端々から伝わってきます。

### 先輩へメッセージ

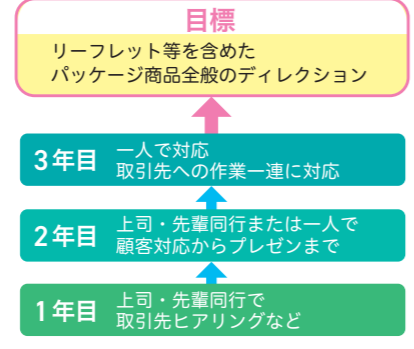
職場環境を知ること。  
人と人との関わりが、  
継続へとつながる

自分のやりたいことで、就職先を探す方が多いと思います。でも、私が考える理想的な職場は、「仕事を行う環境」や「職場の雰囲気」、そこで働く上司や先輩、同僚の「人間としてのつながり」も大切。入社後の不慣れな作業の中で、仕事を継続していくためにも、職場環境を知っておくことを勧めます。



### 定着のポイント

営業担当に同行することで、「やる気」を促す  
制作担当も営業担当も、新人から外回りの実践に参加。先輩に同行し取引先に伺い、希望や要望のヒアリングを行います。個人差はありますが、入社2年目から、顧客対応やプレゼンテーションなど一連の作業に対応。



### 佐々木さんの1日

- 8:30 作業開始
  - 提案中のデザイン制作
  - 刷版発注のための入稿データ作成と確認
- 12:00 昼食
- 13:00 社内打ち合わせ
- 14:00 入稿データの確認
- 15:00 提案中のデザイン制作
- 17:30 終業

### 会社概要

有限会社スマッシュ

所在地 〒983-0013 宮城県仙台市宮城野区中野字神明108

TEL 022-387-0721

URL https://smash-sendai.jp

代表 代表取締役 荒木 賢一朗

設立 1991年7月

従業員数 20人

### オフショット

仙台駅周辺でショッピングをしたり、地元の商品が目玉を引くお土産コーナーをのぞいてみたり。パッケージにはつい目が留まります。自宅でのんびりする時には、趣味のギターを弾いて気分転換。慣れ親しんだ自転車で海岸へ向かい、海風を満喫することも。休日は1週間の疲れを癒す貴重な時間なので、睡眠は大切にしています。

### 採用担当者の声

CTO/クリエイティブディレクター 稲葉 晴彦さん

### 技術は会社で、センスは暮らしから磨かれるもの

弊社は、書類・面接・ポートフォリオでの選考を行っています。佐々木の作品は「好きを追求した作品」で、群を抜くものがありました。現場に入れば、トレーニングで技術は身につくものです。制作の分野で言えば「得意分野」を持つこと。自分が好きなことを、さらに磨いて強みにすることで、必ず役立ちますので。

CASE 04

東北セラミック株式会社 (亶理町)
製造技術部 技術課
小松 円香さん (31歳)
Komatsu Madoka



不具合の要因を分析
ミスの起きにくい環境へ改善する

「人」を責めずに「事象」を攻める
現場との密なコミュニケーション

東北セラミックは、工業分野で使われるセラミック製品(エンジニアセラミックス)の製造販売を手掛ける企業。セラミックスの高い耐熱性、耐食性、耐摩耗性、絶縁性といった性質を生かし、さまざまな製品を生み出します。小松円香さんは、製品に寸法違いや「クラック(割れ)」などの不具合が起きた際、再発防止のために原因を究明する業務を担当しています。
「不注意だった」、「忙しかった」などで片付けず、不具合が起きた環境や製造現場の仕組みに欠陥がなかったか深掘りします。人の心理面を追求しないことがポイント」と小松さん。まず製造チーム内で製造過程を振り返り、加工条件や順序、方法などを詳細に洗い出して原因を明らかにし、そのレポートを確認。補足が必要な部分は聞き取りをして報告書を作成。その後、各課の代表者によるミーティングで共有し、再発防止策

ものづくりは試行錯誤の連続
大変だけど面白い

を話し合い業務の改善を図ります。
同社が不具合再発防止対策を始めたのは2016年度。当時入社2年目の小松さんが主担当に抜擢されました。当初は不具合の原因調査の重要性が製造担当者に理解されにくく「聞き取りを嫌がられることもあった」そうです。しかしその後は、不良率が低下する、営業担当者も製品について理解が深まるといったメリットが伝わり、今では全社的な協力を得られているとのこと。
セラミックスについて「授業で少し触れた程度だった」と小松さん。会社説明会で「うちは他社製品の部品を作る会社」と聞き、「メーカーのものづくりを陰で支えるなんてかっこいい」と入社を決意。入社後はセラミックスという素材の面白さや可能性を実感しているそうで、「例えば金属部品をセラミックス製に切

り替えて部品の寿命を延ばすこともできるんです」と目を輝かせます。
不具合再発防止対策の他、品質管理関係業務、製品の製造にも携わることもあり、以前自分が作った製品にクラックが発生して原因究明に苦労したことが心に残っているといいます。「考え得る限りの条件を試しても解消しないまま何カ月も経過した後、ようやく原因が分かったのですが、長くてつらかった。この時にもものづくりの「根っこ」を学びました。現在も製造を担当する際は試行錯誤の連続。大変だけれども、これがものづくりの醍醐味」。入社9年、そう言えるまでに成長しました。

「縁の下の力持ち」として
製造現場をサポートする

同社は女性社員の割合が約3分の1と製造業の中では高く、産休や育休を活用して子育てしながら長く勤める人も多いそう。「お互いに仕事をフォローし合える職場」とのこと、全体的な有給休暇取得率の高さと離職率の低さが働きやすさを反映しています。

小松さんには今年初めて直属の後輩が入りました。「今まで自分の仕事だけに打ち込んできたけれど、今後は後輩のサポートも含めて視野を広げたい」と抱負を語ります。「技術課の仕事は、製造担当者が働きやすい環境を作ること。職人に最大限寄り添うことを意識したい」。縁の下の力持ちとして、これからも全力で現場を支えます。

先輩へメッセージ

工場見学や自社説明会で
「自分が働く姿」をイメージしよう

製造業のすべてが力仕事というわけではなく、性別によってできないことはほとんどありません。気になる企業があれば工場見学や自社説明会へ足を運び、現場や社員の雰囲気や自分の目で確かめるといいですよ。会社案内やロコミを読むより、実際に見るほうが断然いい。そこで「自分が働くイメージが湧くかどうか」は大事なポイントです。



定着のポイント
さまざまな取組で
定着をすすめる

- 外部講習(蔵王ロッジで開催) 4~7日間/回:階層別(新入社員、若手リーダー、課長級、管理職級)
社内研修:入社時から1年間
定性的な人事評価制度の活用
福利厚生充実(安比高原宿泊施設の保有、楽天イーグルス年間シートの保有)
コミュニケーションの充実(社員旅行、スポーツ大会、各種歓迎迎会、忘年会)

小松さんの1日
8:30 朝礼
8:45 電気炉の修繕作業
10:00 不具合再発防止対策ミーティング
12:00 昼食
13:00 測定機器校正
15:30 燃料電池セルの作製
17:30 終業

会社概要
東北セラミック株式会社
所在地 千989-2351 宮城県亶理郡亶理町字江下111
TEL 0223-34-6817
URL https://www.tohokuceramic.com
代表 代表取締役社長 清野 嘉幸
設立 1982年4月
従業員数 47人

オフショット
日ごろは料理、読書、映画や好きなお笑い番組を観て過ごしています。
また自然が多い場所に出かけるのも好きなので、週末は運動がてら森林散策をしたり、景観のいい地でキャンプをしたりしてリフレッシュしています。

採用担当者の声
代表取締役社長 清野 嘉幸さん

前向きな気持ちや考えを持っている人
当社は、お客様のニーズにどこまで対応できるかが非常に大切となりますので、つねにチャレンジすることが必要となります。必要な人材は、前向きな気持ちや考えを持っている人です。
研修期間を1年間とし、時間を掛けて教育し、その後もさまざまな経験を重ねて、多様な考え方からベストな答えを導き出せるように成長して頂いています。
小松主任は当社初の女性技術職として採用しました。持ち前の誠実性や積極性で成長が早い社員です。現状、品質向上の分野と研究開発分野の二刀流で活躍しています。今後は、マネジメントのできる技術者へ成長してほしいと思います。